

ペンドルトン新聞

ペンドルトン市について

ネイティブアメリカン・ペンドルトン

アメリカ合衆国の中西部、オレゴン州最大の都市であるポートランド市から東へ約350km離れた場所にペンドルトン市がある。ペンドルトン市にはウマティライニアイン居住区部族連合がある。先住民であるカイユース族、ウマティラ族、ワラワラ族からなっている。ペンドルトン市もポートランド市もハックルベリーという果物が有名である。ウマティライニアイン居住区部族連合ではハックルベリーを採る祭典があるのだとホストファミリーは言っていた。そのことから、昔からハックルベリーはとても大切にされていたのではないか。また、昔、先住民は暮らす地域を指定された。それはとても狭い場所であり、もともと先住民の方々がもつていた土地を取り戻すために、ホストファミリーの方は儲けたお金のために使わず、土地を取り戻すために使っているところに驚いた。

アメリカ合衆国の中西部、オレゴン州最大の都市であるポートランド市から東へ約350km離れた場所にペンドルトン市がある。ペンドルトン市にはウマティライニアイン居住区部族連合がある。先住民であるカイユース族、ウマティラ族、ワラワラ族からなっている。ペンドルトン市もポートランド市もハックルベリーという果物が有名である。ウマティライニアイン居住区部族連合ではハックルベリーを採る祭典があるのだとホストファミリーは言っていた。そのことから、昔からハックルベリーはとても大切にされていたのではないか。また、昔、先住民は暮らす地域を指定された。それはとても狭い場所であり、もともと先住民の方々がもつていた土地を取り戻すために、ホストファミリーの方は儲けたお金のために使わず、土地を取り戻すために使っているところに驚いた。

踊りについて



右にある写真のように専用の衣装を着て、踊るというものを見た。この写真では映っていないが、中心部で複数の大人が太鼓のような楽器を演奏しながら歌を歌い、それに合わせて周りで男子、女子、それぞれ分かれで踊っていた。女子の踊りには、「ゆつくり」「少し速い」「速い」という速度が違う同じ踊りをそれぞれ3人に分かれて踊っていた。

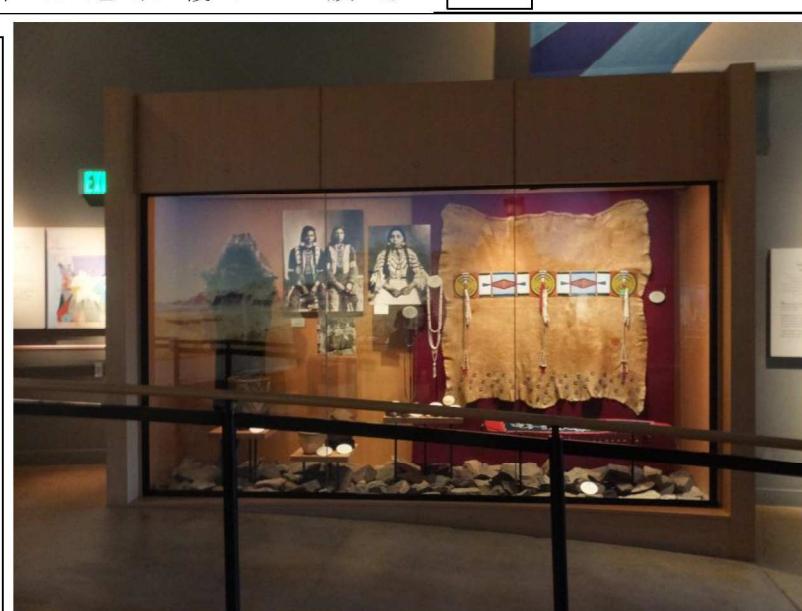
合せながら踊るのが難しかった。このような、男女分かれて踊る踊りもあったが、男女一人ずつのペアになつて踊る、フォーカダンスのような踊りもあった。

ティピーについて

ティピーとは円錐型のテントであり、アメリカのインディアンの部族が住んでいたテントだ。左の写真のような形をしている。円錐のトップは、普段、布で覆われていないが覆うことも可能だそうだ。布に描かれている柄は様々だった。キャンプ地にはティピーが多くあつた。入り口は布で隠されている。ティピーの中には、火をつける場所もあつた。



ネイティブアメリカンの博物館



右の写真はネイティブアメリカンについての博物館の写真だ。ここには昔のネイティブアメリカンのことについて多く書かれていた。大きな昔の子どもたちの写真が壁一面に貼つてあつたところもあつた。そこでネイティブアメリカンについて多くの説明をして頂いた。そこで学んだことは中学校の教科書に載つてないことも多くあり、学校では学ばなかつたネイティブアメリカンが困ついていたこと、大変だったことについて学んだ。もっと多くのネイティブアメリカンについて知り、これから自分にできることは何かについて考える第一歩となつた。